

## 学則の変更の趣旨等を記載した書類

### ア 学則変更（収容定員変更）の内容

令和7年度を期限とする10名の入学定員について、令和8年度までの期限を付した再度の入学定員増を行い、令和8年度の入学定員を再度の定員増を行わなかった場合の90名から100名に変更する。

これにあわせて、収容定員についても令和8年度までの期限を付した臨時の入学定員増を踏まえ、再度の定員増を行わなかった場合の590名から600名に変更する。

### イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

地域医療を担う医師の不足という深刻な状況から、平成21年度に「緊急医師確保対策」に基づき平成29年度までの期限を付した5名の臨時定員増を、また「経済財政改革の基本方針2008」に基づき5名の恒久定員増をそれぞれ実施した。

さらに、平成22年度に「経済財政改革の基本方針2009」に基づき平成31年度までの期限を付した5名の臨時定員増を実施した。また、平成29年度には時限を迎えた「緊急医師確保対策」に基づく臨時定員5名を平成31年度まで2年間延長し、経済財政改革基本方針に基づき臨時定員10名を更に令和7年度まで6年間延長した。

今回の令和8年度を期限とする10名の入学定員については、依然として医師不足が続いており、大分県からも医師偏在の非常事態に直面しているへき地医療に対する医師の育成について強い要望があるため、今後も継続して取り組む。

なお、再度の定員増を行う10名については、これまでどおり総合型選抜の地域枠入学者とする。

### ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

医学教育モデル・コア・カリキュラムの改定に伴い、教育課程の変更を進めているところであるが、地域医療（へき地を含む）に携わる医療人の育成をめざした以下の地域医療教育は引き続きカリキュラムに組み込み、さらに充実させていく。

- 1）1年次の入学直後の「早期体験実習」（3日間）では、地域の障害者支援施設で介護実習を行い、実際の医療現場を体験することにより、医学部学生としての意識付けを確たるものとしている。
- 2）3年次の「地域医療実習・講義」（2週間）では、地域医療の現状と課題に関する講義に加えて、県内55箇所の診療所（へき地診療所を含む）での体験実習を行うことにより、プライマリ・ケアの重要性を学んでいる。
- 3）4年次の「研究室配属」では、医学部の講座・研究室あるいは学外（国内・海外）研究施設で11週間の研究を行っている。この際、地域枠を含めて地域医療に興味のあ

る学生は総合診療・総合内科学講座，総合外科・地域連携学講座に配属され，地域をフィールドとした臨床研究を行い，リサーチマインドを涵養している。

- 4) 5年次の「滞在型地域医療実習」(2週間)では，大分県内16箇所のへき地医療拠点病院で泊まり込みの実習を行い，地域包括ケアの現場を体験しつつ，高齢者医療・多職種連携・在宅医療・医療コミュニケーションなど地域医療に必須の知識・技能・態度を学んでいる。さらに，今後は，医学教育モデル・コア・カリキュラム改定に伴い，現行の2週間からさらなる長期滞在型地域医療実習「Longitudinal Integrated Clerkship ; LIC」の導入も検討している。
- 5) 5年次の「総合診療科実習」(2週間)では，地域の家庭医や病院総合診療医の協力を得て，外来診療・在宅医療・救急を含めた体験型臨床実習を行い，総合的臨床能力の重要性を学んでいる。医学教育モデル・コア・カリキュラム改定に伴い，総合診療科の実習期間を3週間に延長することを検討している。
- 6) 6年次の「選択型臨床実習」(4週間)で総合診療・総合内科学講座，総合外科・地域連携学講座を選択した学生は，離島・中山間部の医療機関を含めた地域医療の現場で参加型臨床実習を行い，地域医療の必要性和そのやりがいを体得している。

なお，今回の収容定員変更により増員の対象となる総合型選抜の地域枠で入学した学生は，上記のカリキュラムに加え，夏季の大分県地域医療研修会及び冬季の“へき地医療中核病院”の医師による講演会・交流会に参加する。本学地域医療学センターの教員によるキャリア支援とともに，地域枠の卒業生と在校生による“大分の地域医療の明日を拓く会”による屋根瓦式の支援体制が構築されており，早期から段階的に地域医療を体験し，知識・技術・態度の習得とともに使命感や，やりがいを実感することができている。令和8年度以降もこのカリキュラムを継続し，さらに充実させ，優秀な卒業生を輩出して地域医療の発展に寄与していく。

令和 8 年度  
医学部入学定員増員計画

分大総企第 3 号  
令和 7 年 8 月 19 日

文部科学省高等教育局長 殿

国立大学法人大分大学長  
北野 正剛

「地域の医師確保等の観点からの令和 8 年度医学部入学定員の増加について（令和 7 年 8 月 5 日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

< 連絡先 >

責任者連絡先	職名・氏名	医学・病院事務部学務課長 工藤 幸治
	TEL	097-586-5502
	E-mail	gakumukt@oita-u.ac.jp

大学名	国公私立
大分大学	国立

1. 現在（令和7年度）の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
100	10	0	650

↑  
(収容定員計算用)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
(ア) 入学定員	100	100	100	100	100	100	600
(イ) 2年次編入学定員	10	10	10	10	10	0	50
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	110	110	110	110	110	100	650

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和8年度の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
90	10	0	590

↑  
(収容定員計算用)

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	計
(ア) 入学定員	90	90	90	90	90	90	540
(イ) 2年次編入学定員	10	10	10	10	10	0	50
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	100	100	100	100	100	90	590
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)	0	0	0	0	0	0	

3. 令和8年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
100	10	0	600

↑  
(収容定員計算用)

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	計
(ア) 入学定員	100	90	90	90	90	90	550
(イ) 2年次編入学定員	10	10	10	10	10	0	50
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	110	100	100	100	100	90	600
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)	0	0	0	0	0	0	

増員希望人数	10
--------	----

↑  
(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増（地域枠）	10
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増（研究医枠）	0
計	10

地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数	10
--------	----

(1) 対象都道府県名及び増員希望人数

	都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県	大分県	10
大学所在地以外の都道府県		
計		10

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R6地域枠定員 (※1)	R6貸与者数 (※2)	R7地域枠定員 (※1)	R7貸与者数 (※2)	R6とR7の貸与者数のうち多い方の数
大分県	10	13	10	13	13
					0
					0
					0
					0
					0
計	10	13	10	13	13

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

（３）令和８年度地域の医師確保のための入学定員増について

１．大学が講ずる措置

１－１．地域枠学生の選抜

① **令和６年度に実施した**地域枠学生（令和７年入学）の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法（※１）	出願要件（※１）	診療科の選定の有無	（診療科の選定が有る場合）その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
総合型選抜	（ii）総合型選抜	別枠（区別型）	13	10	選抜方法等 （１）選抜方法 【第１次選考】 一般枠、地域枠ともに、大学入学共通テストの成績により第１次選考（一般枠は約５５名、地域枠は約３０名）を行い、第２次選考の対象者を決定します。  【第２次選考】 一般枠、地域枠ともに、面接（個人面接及びグループディスカッション）を行い、自己推薦書、調査書、特別活動に関する調査書及び大学入学共通テストの成績を総合的に評価し、合格者を決定します。 同点者がある場合は、大学入学共通テストの総得点の高得点者、大学入学共通テストの理科の高得点者の順に高順位とします。	出願資格 ※一般枠と地域枠との併願は認められません。 【一般枠】 高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を令和５年（２０２３年）３月以降に卒業した者及び令和７年（２０２５年）３月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、令和６年（２０２４年）４月１日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。）で、大学入学共通テストの実施教科・科目のうち本学が指定した教科・科目を受験し、かつ、次の要件を満たす者です。 （１）高等学校等における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がＡ段階に属する者 （２）臨床医あるいは医学研究者として活躍しようとする、明確な目的意識を持ち、病める人々への思いやりと共感、生涯学習への意志と体力を持った者 （３）合格した場合は、入学することを確約できる者  【地域枠】 上記出願資格に加え、次の要件を満たす者です。 ・大分県内の小学校又は中学校を卒業し、大学卒業後、大分県の地域医療に貢献したいという強い意志を有する者で、大分県が指定するべき地医療拠点病院で実施する体験活動（８月中の連続する３日間実施）を受けた者 ※本体験活動は、地域枠で出願するためにのみ実施するものです。	有（推奨）	小児科 産婦人科 救急科 整形外科	H21以前	
合計			13	10						

（※１）貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

②**令和7年度に実施する**地域枠学生（令和8年入学）の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行う場合には、それぞれご記入ください。

また、参考としてPRのために作成した文書（リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等）の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法（※1）	出願要件（※1）	診療科の選定の有無	（診療科の選定が有る場合）その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
総合型選抜	(ii) 総合型選抜	別枠（区別型）	13	10	選抜方法等 （1）選抜方法 【第1次選考】 一般枠、地域枠ともに、大学入学共通テストの成績により第1次選考（一般枠は約55名、地域枠は約30名）を行い、第2次選考の対象者を決定します。  【第2次選考】 一般枠、地域枠ともに、面接（個人面接及びグループディスカッション）を行い、自己推薦書、調査書、特別活動に関する調査書及び大学入学共通テストの成績を総合的に評価し、合格者を決定します。 同点者がいる場合は、大学入学共通テストの総得点の高得点者、大学入学共通テストの理科の高得点者の順に高順位とします。	出願資格 ※一般枠と地域枠との併願は認められません。 【一般枠】 高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を令和6年（2024年）3月以降に卒業した者及び令和8年（2026年）3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、令和7年（2025年）4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。）で、大学入学共通テストの実施教科・科目のうち本学が指定した教科・科目を受験し、かつ、次の要件を満たす者です。 （1）高等学校等における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 （2）臨床医あるいは医学研究者として活躍しようとする、明確な目的意識を持ち、病める人々への思いやりと共感、生涯学習への意志と体力を持った者 （3）合格した場合は、入学することを確約できる者  【地域枠】 上記出願資格に加え、次の要件を満たす者です。 ・大分県内の小学校又は中学校を卒業し、大学卒業後、大分県の地域医療に貢献したいという強い意志を有する者で、大分県が指定するへき地医療拠点病院で実施する体験活動（8月中の連続する3日間実施）を受けた者 ※令和6年（2024年）8月に本体験活動を受け、「体験活動日誌」及び「体験活動感想文」を提出済の者については、本体験活動を再度受ける必要はありません。 ※本体験活動は、地域枠で出願するためにのみ実施するものです。	有（推奨）	小児科 産婦人科 救急科 整形外科	H21以前	
合計			13	10						

（※1）貴大学において、PRのために作成した文書（リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等）に記載の内容（貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容）をご記入ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

## 1－2．教育内容

①地域枠学生が卒後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要（令和8年度）について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

1年次の「早期体験実習」では県内医療機関にて介護福祉に関する体験実習を行い、3年次に診療所で行う「地域医療実習（シャドウイング）」及び5年次に実施する滞在型の「臨床実習（Stage1）地域医療実習」、さらに6年次の選択実習において、地域枠学生が卒後に勤務するへき地医療拠点病院・診療所を実習施設に組み入れている。また、4年次の「研究室配属」（11週間）では地域医療の諸問題をテーマとした研究を行っている。さらに、夏休みには自治医科大学学生と合同で3日間の地域病院・診療所での実習を行っており、令和3年度～令和7年度は厚労省事業での「総合診療インテンシブコース」での総合診療教育を行っている。

（参考：記入例）  
1～2年次には、「○○」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～～を学んでいる。令和8年度からは、■ ■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②（過去に地域枠を設定したことがある場合）これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

平成19年度から入学定員内に地域枠（学士：3名）を導入し、平成21年からは地域枠による増員（平成21年5名：平成22年以降10名）を開始し、現在、計13名を地域枠としている。令和7年度までに地域枠学生222名を確保し、これまで140名が大分県内の医療機関で医師として勤務、現在（令和7年度）は49名がへき地医療拠点病院に赴任し、地域医療に貢献している。

（参考：記入例）  
平成○年度から地域枠による増員を開始し、□□、■ ■などの取組を行ってきた。令和7年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～～として地域医療に貢献している。

③上記①の教育内容（正規科目）について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 （※1）	必修／選択の別		講義／実習の別	単位数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1 年次生	早期体験実習	全員	必修	必修	実習	1	H21以前
3 年次生	総合診療科・総合外科	全員	必修	必修	講義	2	H24
3 年次生	地域医療実習（シャドウイング）	全員	必修	必修	実習		H24
4 年次生	研究室配属	全員	必修	必修	実習	5	H21以前
5 年次生	臨床実習（Stage1）地域医療実習	全員	必修	必修	実習	4	H23
4，5 年次生	臨床実習（Stage1）の総合内科・総合診療科	全員	必修	必修	実習		H28
5，6 年次生	臨床実習（Stage2）の総合内科・総合診療科	全員	選択必修	選択必修	実習	4	H24
5，6 年次生	臨床実習（Stage2）の総合外科・地域連携学	全員	選択必修	選択必修	実習		H30

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。（地域枠学生の希望者のみの場合は、対象者を「地域枠学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。）

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 （※1）	都道府県との連携	期間 （例：○週間）	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度
1 年次生	地域枠入学生オリエンテーション・交流会	地域枠学生1年生	大分県福祉保健部医療政策課、大分県地域医療支援センターとの連携	1 日間	入学後、地域医療学センタースタッフおよび大分県福祉保健部医療政策課職員と1年生がオリエンテーション及び互いの交流を行う	R4
1 年次生～5 年次生	大分県地域医療研修会	地域枠学生	大分県福祉保健部医療政策課、大分県地域医療支援センターとの連携	3 日間	夏休み期間に大分県内のへき地医療拠点病院かへき地診療所で2泊3日の研修を自治医科大学と一緒に行う	H21以前
1 年次生～6 年次生	大分の地域医療の明日を拓く会	地域枠学生	大分県福祉保健部医療政策課、大分県地域医療支援センターとの連携	1 日間	へき地医療拠点病院長と地域枠卒業医師による講演、および地域枠卒業医師を困む懇談会により情報共有を行う	H25
1 年次生～6 年次生	宮崎・大分 総合診療つながるカフェ	全員	大分県総合診療医センターとの連携	2 日間	宮崎大学と連携して医師会や自治体の協力を得て、事例ベースで多職種連携を学ぶプログラム	R4

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。（令和7年度以前から継続する取組を含む）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度
大分県臨床研修医合同研修会	大分県（地域医療支援センター）、大分県医師会と大分大学地域医療学センター主催で、講演会と情報交換会を行っている。	H27
高大連携セミナー「地域医療魅力発見セミナー」	大分大学医学部地域医療学センター主催で、大分県教育庁高校教育課の協力のもと、大分県内高校1・2年生を対象とした講演や体験学習を行っている。	H23
大分の地域医療を支える医学教育戦略を考える会	大分県地域医療支援センターおよび大分大学医学部地域医療学センターの主催により、大分県内の地域拠点病院の医師を対象とした Faculty Development (FD) として実施	R5

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。



2. 都道府県等との連携等

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」（平成元年法律第64号）第4条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。  
なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定 主体	貸与人数	貸与対象	貸与額（例：200,000）		返還免除要件	選抜方法		診療科の選定の有無	（診療科の選定 が有る場合） その診療科名	備考
			月額	総貸与額		選抜時期	大学の関与の 有無（※1）			
大分県	13	新入生	94,650	7,096,800	大学卒業後、医師免許を受けた後、貸与を受けた2分の3の期間(通常9年間)を次の「(1)地域医療コースの勤務パターン」又は「(2)特定診療科コースの勤務パターン」に基づき、指定医療機関で勤務します。  (1)地域医療コースの勤務パターン ① 初期臨床研修(卒業後2年間)：大分大学医学部附属病院 ② 地域勤務(卒業後3～9年目のうち4年間、ただし3年目は必ず地域勤務)：県の指定するへき地医療拠点病院等 ③ 専門研修(卒業後4～9年目のうち3年間)：大分大学医学部附属病院等  (2)特定診療科コースの勤務パターン ① 初期臨床研修(卒業後2年間)：大分大学医学部附属病院 ② 地域勤務(卒業後3年目と8～9年目の3年間)：県の指定するへき地医療拠点病院等 ③ 専門研修(卒業後4～7年目の4年間)：大分大学医学部附属病院等  ※ 指定医療機関…大分大学医学部附属病院、へき地医療拠点病院、へき地診療所のうち、県が指定するもの	①大学における選抜前に都道府県において面接等を実施	×	有（推奨）	小児科 産婦人科 救急科 整形外科	【総貸与額内訳】 ・入学科 282,000円 ・授業料 3,214,800円 （年額535,800円×6年間） ・修学支援金 3,600,000円 （月額50,000円×6年間）  合計 7,096,800円  【診療科の選定】 診療科の選定の無い「地域医療コース」の勤務パターンは、臨床研修2年、専門研修3年、地域勤務4年の計9年間であるが、特定診療科（小児科・産婦人科・救急科・整形外科）を希望する地域枠医師は、専門研修4年（卒後4～7年目）、地域勤務3年（卒後3、8、9年目）の「特定診療科コース」を選択できるものとする。 なお、「特定診療科コース」に人数の制限はないため、臨時定員増希望数10名全員が、「特定診療科コース」を選択することも可能である。

（※1）診療科の限定または推奨がある場合は、備考欄に詳細をご記入ください。  
※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度
地域枠学生との面談	卒業後の心配を解くために、地域医療学センタースタッフがメンター的に面接を行い、義務期間の勤務、キャリア形成支援などを説明（県と共有）	H21以前
臨床研修医、地域枠医師との個人面談、キャリア支援	地域枠医師全員に対して、キャリア形成と地域勤務との両立を図るための相談や指導を大分県福祉保健部医療政策課と合同で実施	H26
キャリア形成プログラムの作成	所属する医局と大分県福祉保健部医療政策課と協働で作成し、大分県地域医療対策協議会で共有	R1

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

3. 在学中の地域枠学生に対する大学の相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援

在学中の地域枠学生に対する大学の相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援についてご記入ください。（都道府県と連携した取組を含む）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度
地域枠学生との面談	地域医療学センタースタッフがメンター的に面接を行い、卒後のキャリアパス相談、義務期間の勤務、キャリア形成支援などを説明（県と共有）	H21以前
大分の地域医療の明日を拓く会（地域枠学生同門会）の開催	地域枠学生の一体感を醸成し、同時に地域枠卒業医師によるキャリアパスに関する講演等を行い、その不安を解消するために年一回の頻度で開催	H25

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

4. その他

1～3に記入したもの以外で、その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。（1～3行程度）

特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組予定がありましたら、ご記入ください。

「内科医療人材育成会議」（平成30年より自治体と連携して、地域枠医師を指導医とともに地域病院に派遣する仕組み）や、大分県および県内の臨床研修指定病院とともに「大分県臨床研修病院合同説明会」「県外大型フェアへの出展」「大分県臨床研修病院見学ツアー」等のリクルート活動を行っている。

令和7年度（2025年度）  
総合型選抜 学生募集要項（抜粋）

## 1. 募集人員

医学部医学科 25名（一般枠22名、地域枠3名）

地域枠定員については、文部科学省等に地域枠に係る臨時定員増の申請を行う予定です。承認された場合及び承認されなかった場合の募集人員は、それぞれ下記のとおりとします。

なお、地域枠に係る臨時定員増の申請が承認されなかった場合でも、大分県における医師確保の観点から、一般選抜（前期日程）一般枠募集人員を55名から45名に、総合型選抜地域枠募集人員を3名から13名に変更することとします。

審議結果（令和6年（2024年）10月下旬～11月上旬を予定）が分かり次第、本学ホームページで発表します。

【地域枠に係る臨時定員増の申請が承認された場合の募集人員】

【現在の募集人員】

総合型選抜	一般枠 22名	計
	地域枠 3名	25名
一般選抜 （前期日程）	一般枠 55名	計
	地元出身者枠 10名	65名



総合型選抜	一般枠 22名	計
	地域枠 13名	35名
一般選抜 （前期日程）	一般枠 55名	計
	地元出身者枠 10名	65名

【地域枠に係る臨時定員増の申請が承認されなかった場合の募集人員】



総合型選抜	一般枠 22名	計
	地域枠 13名	35名
一般選抜 （前期日程）	一般枠 45名	計
	地元出身者枠 10名	55名

## 2. 出願資格 ※一般枠と地域枠との併願は認められません。

【一般枠】

高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有すると  
して文部科学大臣が認定している在外教育施設等を令和5年（2023年）3月以降に卒業した者及  
び令和7年（2025年）3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、令和6年（2024年）  
4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。）で、大学入学共通テストの  
実施教科・科目のうち本学が指定した教科・科目を受験し、かつ、次の要件を満たす者です。

- （1）高等学校等における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が**A段階**に属する者
- （2）臨床医あるいは医学研究者として活躍しようとする、明確な目的意識を持ち、病める人々への思いやりと共感、生涯学習への意志と体力を持った者
- （3）合格した場合は、入学することを確約できる者

### 【地域枠】

上記出願資格に加え、次の要件を満たす者です。

- ・大分県内の小学校又は中学校を卒業し、大学卒業後、大分県の地域医療に貢献したいという強い意志を有する者で、大分県が指定するへき地医療拠点病院で実施する体験活動（8月中の連続する3日間実施）を受けた者

※本体験活動は、地域枠で出願するためにのみ実施するものです。

## 9. 選抜方法等

### （1）選抜方法

#### 【第1次選考】

一般枠、地域枠ともに、大学入学共通テストの成績により第1次選考（一般枠は約55名、地域枠は約30名）を行い、第2次選考の対象者を決定します。

※第1次選考の結果については、通知書を令和7年（2025年）**2月6日（木）に受験者全員へ電子郵便で出願時に登録した現住所へ通知**します。翌日の12:00までに未着の場合は、最寄りの集配郵便局に問い合わせてください。

第1次選考合格者は、第2次選考試験当日に、必ず「**大分大学受験票**」と「**大学入学共通テスト受験票**」の2種類を忘れずに持参してください。

#### 【第2次選考】

一般枠、地域枠ともに、面接（個人面接及びグループディスカッション）を行い、自己推薦書、調査書、特別活動に関する調査書及び大学入学共通テストの成績を総合的に評価し、合格者を決定します。

同点者がいる場合は、大学入学共通テストの総得点の高得点者、大学入学共通テストの理科の高得点者の順に高順位とします。

### （3）第2次選考試験期日

試験期日	試験時間	試験科目
令和7（2025年）2月9日（日）	午前の部：9時00分～	面接（個人面接・グループディスカッション）
	午後の部：13時00分～	

### （6）地域枠について

地域枠志願者は、次の①～④について承諾した上で、出願前に大分県が指定するへき地医療拠点病院で実施する体験活動（8月中の連続する3日間）を受けていただきます。

※詳細は別添の「令和7年度（2025年度）大分大学医学部医学科総合型選抜へき地医療拠点病院体験活動実施要項」に記載しています。

#### ① 大分県医師修学資金貸与制度

大分大学医学部に総合型選抜（地域枠）で入学した学生全員に、大分県医師修学資金が貸与されます。

##### （ア）貸与額

貸与額は、本学の入学料及び授業料に相当する額と修学支援金月額5万円です。

※貸与額は、入学料・授業料改定によって変更することがあります。

(イ) 返還の免除

大学卒業後、キャリア形成プログラムの対象となり、同プログラムに基づき大分県知事の指定する医療機関において、貸与を受けた期間の2分の3に相当する期間を医師として勤務した場合、全額返還を免除します。

※詳細は大分県作成の「令和7年度大分県医師修学資金貸与制度のしおり（総合型選抜の地域枠入学生向け）」で確認してください。

《問合せ先》

大分県福祉保健部医療政策課地域医療推進班

〒870-8501 大分市大手町3丁目1番1号

TEL 097-506-2658 FAX 097-506-1734

② 地域医療研修会

地域枠入学者は、大分県が毎年実施する「地域医療研修会」に参加していただきます。

③ キャリア形成プログラム

地域枠入学者は、卒業後、キャリア形成プログラムの対象となります。

※キャリア形成プログラムとは、平成30年（2018年）7月の医療法の一部改正に伴い規定されたもので、医師不足地域の医師確保と当該地域に派遣される医師のキャリア形成の両立を目的として、卒業後、返還免除のため指定医療機関において勤務する期間（原則貸与期間の2分の3）の就業先や研修先をあらかじめ大まかに定めておくものです。

④ その他

地域枠入学者は、入学後に一般枠への変更はできません。

令和 8 年度（2026 年度）  
総合型選抜 学生募集要項（抜粋）

## 1. 募集人員

医学部医学科 25 名（一般枠 22 名、地域枠 3 名）

地域枠定員については、文部科学省等に地域枠に係る臨時定員増の申請を行う予定です。承認された場合及び承認されなかった場合の募集人員は、それぞれ下記のとおりとします。

なお、地域枠に係る臨時定員増の申請が承認されなかった場合でも、大分県における医師確保の観点から、一般選抜（前期日程）一般枠募集人員を 55 名から 45 名に、総合型選抜地域枠募集人員を 3 名から 13 名に変更することとします。

審議結果（令和 7 年（2025 年）10 月下旬～11 月上旬を予定）が分かり次第、本学ホームページで発表します。

			【地域枠に係る臨時定員増が承認された場合の募集人員】		
総合型選抜	一般枠 22 名	計	一般選抜 (前期日程)	一般枠 22 名	計
	地域枠 3 名	25 名		地域枠 13 名	35 名
一般選抜 (前期日程)	一般枠 55 名	計		一般枠 55 名	計
	地元出身者枠 10 名	65 名		地元出身者枠 10 名	65 名
			【地域枠に係る臨時定員増が承認されなかった場合の募集人員】		
総合型選抜	一般枠 22 名	計	一般選抜 (前期日程)	一般枠 45 名	計
	地域枠 13 名	35 名		地元出身者枠 10 名	55 名

## 2. 出願資格 ※一般枠と地域枠の併願は認められません。

### 【一般枠】

高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を令和 6 年（2024 年）3 月以降に卒業した者及び令和 8 年（2026 年）3 月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、令和 7 年（2025 年）4 月 1 日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。）で、大学入学共通テストの実施教科・科目のうち本学が指定した教科・科目を受験し、かつ、次の要件を満たす者です。

- （1）高等学校等における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が **A 段階** に属する者
- （2）臨床医あるいは医学研究者として活躍しようとする、明確な目的意識を持ち、病める人々への思いやりと共感、生涯学習への意志と体力を持った者
- （3）合格した場合は、入学することを確約できる者

### 【地域枠】

上記出願資格に加え、次の要件を満たす者です。

- ・大分県内の小学校又は中学校を卒業し、大学卒業後、大分県の地域医療に貢献したいという強い意志を有する者で、大分県が指定するへき地医療拠点病院で実施する体験活動（8月中の連続する3日間実施）を受けた者

※令和6年（2024年）8月に本体験活動を受け、「体験活動日誌」及び「体験活動感想文」を提出済の者については、本体験活動を再度受ける必要はありません。

※本体験活動は、地域枠で出願するためにのみ実施するものです。

## 9. 選抜方法等

### （1）選抜方法

#### 【第1次選考】

一般枠、地域枠ともに、大学入学共通テストの成績により第1次選考（一般枠は約55名、地域枠は約30名）を行い、第2次選考の対象者を決定します。

※第1次選考の結果については、通知書を**令和8年（2026年）2月5日（木）に受験者全員へ電子郵便で出願時に登録した現住所へ通知**します。翌日の12:00までに未着の場合は、最寄りの集配郵便局に問い合わせてください。

第1次選考合格者は、第2次選考試験当日に、必ず「**大分大学受験票**」と「**大学入学共通テスト受験票**」の2種類を忘れずに持参してください。

#### 【第2次選考】

一般枠、地域枠ともに、面接（個人面接及びグループディスカッション）を行い、自己推薦書、調査書、特別活動に関する調査書及び大学入学共通テストの成績を総合的に評価し、合格者を決定します。

同点者がいる場合は、大学入学共通テストの総得点の高得点者、大学入学共通テストの理科の高得点者の順に高順位とします。

### （3）第2次選考試験期日

試験期日	試験時間	試験科目
令和8年（2026年）2月8日（日）	午前の部 9:40～	面接（個人面接・グループディスカッション）
	午後の部 13:40～	

### （6）地域枠について

地域枠志願者は、次の①～④について承諾した上で、出願前に大分県が指定するへき地医療拠点病院で実施する体験活動（8月中の連続する3日間）を受けていただきます。

※詳細は別添の「**令和8年度(2026年度)大分大学医学部医学科総合型選抜へき地医療拠点病院体験活動実施要項**」に記載しています。

#### ① 大分県医師修学資金貸与制度

大分大学医学部に総合型選抜（地域枠）で入学した学生全員に、大分県医師修学資金が貸与されます。

(ア) 貸与額

貸与額は、本学の入学料及び授業料に相当する額と修学支援金月額5万円です。

※貸与額は、入学料・授業料改定によって変更することがあります。

(イ) 返還の免除

大学卒業後、キャリア形成プログラムの対象となり、同プログラムに基づき大分県知事の指定する医療機関において、貸与を受けた期間の2分の3に相当する期間を医師として勤務した場合、全額返還を免除します。

※詳細は大分県作成の「令和8年度大分県医師修学資金貸与制度のしおり(総合型選抜の地域枠入学生向け)」で確認してください。

《問合せ先》

大分県福祉保健部医療政策課地域医療推進班  
〒870-8501 大分市大手町3丁目1番1号  
TEL 097-506-2658 FAX 097-506-1734

② 地域医療研修会

地域枠入学者は、大分県が毎年実施する「地域医療研修会」に参加していただきます。

③ キャリア形成プログラム

地域枠入学者は、卒業後、キャリア形成プログラムの対象となります。

※キャリア形成プログラムとは、平成30年(2018年)7月の医療法の一部改正に伴い規定されたもので、医師不足地域の医師確保と当該地域に派遣される医師のキャリア形成の両立を目的として、卒業後、返還免除のため指定医療機関において勤務する期間(原則貸与期間の2分の3)の就業先や研修先をあらかじめ大まかに定めておくものです。

④ その他

地域枠入学者は、入学後に一般枠への変更はできません。



# 【講義・実習名：早期体験実習】

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
AM12Z301		早期体験実習 (Introduction to Clinical Practice) *大分を創る科目(Oita Development Course)					導入教育科目 福祉・地域		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	1	1	医学部医学科	通年	金1, 他	日本語			複数(共同)						
担当教員	氏名 山本恭子														
	E-mail kyoko-yamamoto@oita-u.ac.jp 内線 6741														
授業概要	医師のプロフェッショナルリズムを認識し、医師になるために必要な今後の学修を行う意欲・意義を認識するための早期医療体験実習である。1. 大分大学医学部附属病院早期体験実習：大学病院での最先端医療見学し、チーム医療の中での医師の役割を認識する。具体的には29診療科(22編成)の1つを体験実習する。2. 学外病院・施設での介護等体験実習：病気や障がいからの回復・社会復帰をサポートする大分県内の中核病院で多職種連携のチーム医療を体験する。別府発達医療センター、国立病院機構西別府病院、別府リハビリテーションセンター、オアシス病院のうち1ヶ所で体験実習する。なお、新型コロナ等の感染拡大状況により体験実習の内容を変更することがある。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	社会から信頼を得る上で必要なことを常に考え行動する。											○			
目標2	患者を含めた他者に思いやりをもって接する。								○			○			
目標3	言語的コミュニケーション技能を発揮して、良好な人間関係を築くことができる。								○						
目標4	非言語的コミュニケーション(身だしなみ、視線、表情、ジェスチャー等)を意識できる。								○						
目標5	患者や家族の精神的・身体的・社会的苦痛に十分配慮できる。								○						
目標6	病院・診療所・施設等の職場環境やチームや部門等の所属に応じた他職種の役割を理解している。											○			
目標7	学修・経験したことを省察し、自己の課題を明確にできる。													○	
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									6		2		2		
授業の内容															
1 大分大学医学部附属病院早期体験実習															
2 学外病院・施設での介護等体験実習															
3 体験発表会															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
ラーニング	A: 知識の定着・確認	○	今後の生涯学修を行うスタートラインに立った新入生の「知識の定着・確認」「意見の表現・交換」の活動を促進する実習と考えるが、実際の現場実習であるので、少ないながら「応用志向」「知識の活用・創造」も実践できる。				工夫その他の活動し、マンツーマンでの指導が行われている。	大学病院では、屋根瓦方式の教育をとり、指導医・上級医だけでなく、研修医、医学部上級生からの指導も受け、双方の教育・学修効果を上げる。学外病院でも看護チームメンバーとしての活動し、マンツーマンでの指導が行われている。							
	B: 意見の表現・交換	○													
	C: 応用志向	○													
	D: 知識の活用・創造	○													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	派遣される大学病院診療科および学外病院・施設でどのような医療が行われているかを事前に把握するために、HP等を参照し事前学修をおこなう事。(5時間) http://www.med.oita-u.ac.jp/meded/0726005.pdf を参照する事。													
	事後学修	学外実習終了後、経験した実習体験を共有し、教育・学修効果を上げるために、体験発表会を実施する。また、自らの体験をレポートとして提出する。(10時間)													
	想定時間合計	15													
	教科書	医学教育モデルコアカリキュラム(令和4年度改訂版) https://www.mext.go.jp/content/20221226-mtx_i_gaku-000026778_00001.pdf													
参考書	1. 医政発第0726005号「医師法第17条、歯科医師法第17条及び保健師助産師看護師法第31条の解釈について」http://www.med.oita-u.ac.jp/meded/0726005.pdf 2. 大分大学医学部附属病院外来案内および大分大学医学部附属病院HP 3. 別府発達医療センター、国立病院機構西別府病院、別府リハビリテーションセンター、井野辺病院のHP														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実習レポート	30%							○			
	体験発表会の発表内容	20%	○	○	○	○	○	○	○			
	実習先病院の評価	50%	○	○	○	○	○	○	○			
注意事項	大分大学医学部学生という 自覚の下に(1)各施設の業務の支障とならない様に指示に従う (2)実習中の患者・入所者の情報を口外しない( 守秘義務) (3)時間厳守( 5分前集合) (4)実習時は仲間同士の私語及び不用意な発言は慎む(5)新型コロナウイルス等の感染状況により 実施内容が変更される 場合がある											
備考	事前に配布する、医師法第17条に関する 文書「医政発第0726005号」を良く 読み理解しておくこと。 <a href="http://www.med.oita-u.ac.jp/meded/0726005.pdf">http://www.med.oita-u.ac.jp/meded/0726005.pdf</a>											
リンク	医師法第17条に関する 文書「医政発第0726005号」											
	URL	<a href="http://www.med.oita-u.ac.jp/meded/0726005.pdf">http://www.med.oita-u.ac.jp/meded/0726005.pdf</a>										
担当教員の 実務経験の 有無	○											
教員の 実務 経験	全ての教員は、医師・看護師、薬剤師、臨床工学士、理学・作業・言語療法士などの国家資格及びそれに準ずる資格を持ち医療現場での実務者である。											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○											
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	全ての指導担当者は、医師・看護師、薬剤師、臨床工学士、理学・作業・言語療法士などの国家資格及びそれに準ずる資格を持ち医療現場での実務者である。											
実務経験を いかした教 育内容	教科書に書かれている内容だけでなく、実際の現場で得られる真理があることを認識できる良い機会と考える。											

ナンバリング				授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式				
AM12Z301				早期体験実習 (Introduction to Clinical Practice(Oita Development Course)) *大分を創る科目(Oita Development Course)				導入教育科目 福祉・地域		対面				
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態			
必修		1	1年	医学部医学科	通年		日本語				複数(共同)			
担当教員	氏名 医学教育センター：山本、秋好、医療倫理学：今井													
	E-mail kyoko-yamamoto@oita-u.ac.jp 内線 6761													
授業の概要	・ 早期から様々な医療行動科学を学習・理解し、6年間でそれを実践できるようなコミュニケーション力・人間力を自ら育成しなければならないという意識を持つ ・ 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を獲得する。 ・ 医療面接および身体診察の基本を学び、医師になるというモチベーションを保つ。 ・ 医師のプロフェッショナルリズムについて、さまざまな側面から考え、自ら行動する。													
具体的な到達目標														
目標1	基本的な医療面接を行うことができる。							1	2	3	4	5	6	7
目標2	理想の医師像・社会から求められる医師像について言語化することができる。										○			
目標3	社会から信頼される専門職集団の一員であるためにはどのように行動すべきかを考え、行動することができる										○			
目標4	自身の想像力の限界を認識した上で、他者を理解することに努める								○					
目標5	学修・経験したことを省察し、自己の課題を明確にできる												○	
目標6	課題の解決に当たり、他の学修者や教員と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。								○					
目標7	コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。								○					
目標8	情報・科学技術を理解し、それらの応用可能性について議論できる。												○	
目標9	シミュレーターを使い、異常な心音、異常な呼吸音を聞き分けることができる。							○						
目標10	医学生としてBLSの輪に参加できる											○		
各DPへの関連度(計10)								2	3		3	1	1	
授業の内容														
1	医療面接入門 医療面接の基本：今井													
2	プロフェッショナルリズム教育① 理想の医師とは：秋好													
3	プロフェッショナルリズム教育① 発表会：秋好													
4	プロフェッショナルリズム教育② あなたなら何と答えますか?：秋好													
5	プロフェッショナルリズム教育③ 医学生の望ましい態度とは：山本													
6	プロフェッショナルリズム教育③ 発表会：山本													
7	プロフェッショナルリズム教育④ アンプロフェッショナルな行動：山本													
8	プロフェッショナルリズム教育④ 発表会：山本													
9	プロフェッショナルリズム教育⑤ 内容未定：山本													
10	プロフェッショナルリズム教育⑤ 討論会：山本													
11	身体診察入門①：医学教育センター													
12	身体診察入門②：医学教育センター													
13														
14														
15														
ラーニング	A: 知識の定着・確認		PBL(問題解決型学習、チュートリアル)形式のアクティブラーニング					工夫その他の	LMS(Moodle)の活用					
	B: 意見の表現・交換	○	を行い、その成果を発表する。											
	C: 応用志向	○	シミュレータや学生同士の相互実習(模擬診察、血圧測定等)による体験型学習を行う。											
	D: 知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	チュートリアル学習法、基本的な医療面接、胸部診察法および血圧測定の方法について、事前にe-learningを行う(7h)												
	事後学修	関連書籍や資料を用いて復習を行う(5h) グループ討論後に発表会の準備を行う(12h)												
	想定時間合計	24												
教科書	福井次矢・奈良信雄 編、内科診断学 第3版、医学書院、2016年 (ISBN:978-4-260-02064-0)													
参考書	佐伯由香 編訳、トートラ 人体解剖生理学、丸善出版、2017年 (ISBN:978-4-621-30069-5)													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループ討論と発表	50%		○	○	○	○	○	○	○		
	実習態度	30%	○								○	○
	レポート	20%		○	○	○	○			○		
		実習科目であり、出席は必須。										
注意事項	チュートリアル室とスキルスラボセンターでは、使用規則を遵守すること。 事前学習をして授業に臨むこと。レポートは期限内に提出すること。期限を過ぎたものは受け取らない。											
備考	授業の詳細、PBLの班分けはコース開始前に通知する。											
リンク	Moodle URL											
担当教員の実務経験の有無	○											
教員の実務経験	医師											
実務経験をいかした教育内容	総合内科専門医、家庭医療専門医、循環器内科専門医として、基本的な医学的知識および診察方法等を指導する。											

# 【講義・実習名：総合診療科・総合外科の地域医療実習】

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	主に使用 する言語	その他に使用 する言語	担当形態		
総合診療科・総合外科	必修	2	3	2	月～金	日本語	なし	オムニバス		
【担当教員】 上田貴威 塩田星児 他										
【科目名の英文】 General Medicine／Comprehensive Surgery for Community Medicine										
【授業の概要・到達目標】										
地域医療に従事する様々な職種による講義や診療所実習を通して、地域における保健・医療・福祉の在り方と現状及び課題、関係する各職種の役割を理解し、地域医療に貢献するための能力獲得を目指す。全人的医療の提供に資する各モデルについて事例検討により学ぶ。プライマリ・ケアで頻度の高い症候・疾患に対する内科的・外科的診療の基本的な考え方を学ぶ。										
具 体 的 な 到 達 目 標					医学科ディプロマポリシーとの対応					
					1	2	3	4	5	6
1. プライマリ・ケアにおいて頻度の高い疾患について、症候・病態生理・診断・治療について概説できる					○					
2. BPS モデルに基づき、患者の心理的・社会的背景を知る意義を概説できる								○		
3. 患者中心のケアモデルの構成要素や実践の意義を概説できる								○		
4. 行動変容ステージモデル別の対応について概説できる								○		
5. チーム医療の意義、医療チーム構成員の役割分担と連携体制を概説できる						○				
6. 地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における保健・医療・福祉の多職種間連携の必要性や医療保健福祉制度を概説できる									○	
7. 健康の社会的決定要因(social determinant of health)について概説できる								○		
8. 地域医療に興味を持ち積極的に実習に参加する									○	
9. 患者情報の守秘義務を遵守し、適切な取扱いができる								○		
各 DP への関連度 (計 10)					2	1		5	2	
【授業の内容】 暫定版を記載しております										
回数	授業項目	授業内容			担当講座・教員			方法		
1	医療総論	専門医・キャリアパス形成			総合外科・上田			講義		
2	特別講演	外科周術期における疼痛／緩和ケア			国際医療福祉大・寺町			講義		
3	特別講演	看護師の特定行為について			看護部・看護師／荒金			講義		
4	特別講演	大分県の地域医療（仮）			宮崎医院・宮崎			講義		
5	チュートリアル 1	健康の社会的決定要因			総合診療科・堀之内			PBL・発表		
6	チュートリアル 2	臨床推論			総合診療科・塩田			PBL・発表		
7	特別講演	MSW の役割・医師との関わり			患者支援センター・谷田			講義		
8	特別講演	家族志向のケア（仮）			奈義ファミリークリニック・松下			講義		
9	チュートリアル 3	地域包括ケア			総合診療科・土井			PBL・発表		
10	チュートリアル 4	BPS モデル			総合診療科・吉村			PBL・発表		
11	腹部診断学（1）	炎症性疾患に対する診断と治療（1）			総合外科・高山			講義（PBI）		
12	特別講演	地域医療の醍醐味			山香病院・小野			講義		
13	特別講演	腹痛の診かた			清瀬病院・白石			講義（PBI）		
14	腹部診断学（2）	炎症性疾患に対する診断と治療（2）			総合外科・平塚			講義（PBI）		
15	腹部診断学（3）	悪性腫瘍の診かた			総合外科・平塚			講義（PBI）		
16	腹部診断学（4）	黄疸の診かた			総合外科・高山			講義（PBI）		
17	チュートリアル 5	行動変容			総合診療科・宇都宮			PBL・発表		
18	オリエンテーション	診療所実習オリエンテーション			総合診療科・堀之内			講義		
19	診療所実習	診療所実習			大分県内の診療所医師			シャドウイング		
20	特別講演	公衆衛生行政の役割			県保健福祉部・池邊			講義		
21	特別講演	病院総合診療医（仮）			佐賀大学・多胡			講義		
22	チュートリアル 6	患者中心の医療			よつばファミリークリニック・藤谷			PBL・発表		

【アクティブラーニングの内容】		【その他の工夫】	
・地域医療において頻度の高い症例を用いた学習では、チュートリアル形式や Problem based Interview(PBI)を採用し、学生に診断や治療について自発的・積極的に考えて意見交換する機会を与える。(タイプ B、C)		・地域医療に興味を持ち理解を深めるために、必要に応じて実習前に地域医療の医療サービスや地域包括ケアシステムなどについての学習を行う。	
・シャドウイング実習で訪問診療・在宅医療や医療と福祉の連携現場を経験し、その経験を振り返るためのレポート作成を行う。(タイプ A)		・講義テーマは地域医療の現場において、急性期から回復期や慢性期への医療マネジメントの考え方を学べるものとする。	
【時間外学修の内容と時間の目安】			
準備学修	必要に応じて下記に示した教科書で自己学習を行う(25h)。特にグループ学習においては、シラバスの内容などを踏まえて事前に関連領域について学修した上で、事例シートなどを用いて問題点の抽出やその上での各課題への回答を実施できるような準備学修が望ましい。また、診療所実習においてはオリエンテーションの内容も踏まえつつ、地域包括ケアシステムの中での診療所・プライマリケア医の役割などについて、さらにはプライマリケアでよく遭遇する生活習慣病などについて事前に学修をしておくのが望ましい。		
事後学修	診療所実習(シャドウイング)に関するレポート作成を行う(5h) グループ学習のない各講義や特別講義についても、講義資料や各種関連教科書などを用いてその内容の復習、および身の回りの事例との関連について検討する事後学修が望ましい(15h)。		
想定時間合計	45 h		
【教科書】教科書は特に指定しないが、必要に応じて以下の図書を参照することを推奨する。			
①地域医療学入門(責任編集)岡崎仁昭、松本正俊(監修)日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域・医療教育協議会合同編集委員会、診断と治療社 2019年7月 ISBN 9784787823847			
②新・総合診療医学 診療所 総合診療医学編 第3版(著者)藤沼康樹、カイ書林、2019年6月 ISBN 9784904865439			
【参考書】			
① 症例で学ぶ外科診療 Clinical Scenarios in Surgery、(編集)Justin B. Dimick, Gilbert R. Upchurch Jr, Christopher J. Sonnenday、(訳)安達洋祐、医学書院、2017年9月 ISBN 9784260030588			
② 外科専門医への検査・処置手技の fundamentals、(編集・執筆)白石 憲男、上田 貴威ほか、メジカルビュー、2018年10月 ISBN 9784758315357			
【成績評価方法及び評価の割合】			
診療所実習評価(レポート+実習先の指導医の評価:30%、到達目標8~9に対応)、筆記試験(70%、到達目標1~7に対応)で評価し、60点以上を合格とする。ただし診療所実習の態度や評価に問題のある者は単位を認めない。			
【注意事項】レポートの提出が期日より遅れた場合にはレポート点数を10%減じる。			
【備考】講義内で実施されるグループディスカッションの参加態度について、学生同士でピア評価する場合がある。この評価が極端に低い場合は面談指導を行う予定である。			
リンク			
	URL		
教員の実務経験の有無	○		
教員の実務経験	医師		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○		
教員以外の指導に関わる実務経験者	大分県内の開業医、看護師、ソーシャルワーカー、大分県保健福祉部担当者		
実務経験をいかした教育内容	本コースには診療所実習(シャドウイング)を含む。この実習では大分県内の開業医のもとで外来の見学実習を行う。また、地域における多職種連携において複数の職種担当者が講義を担当する。		
授業形態	対面授業		

【講義・実習名：研究室配属】

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	主に使用 する言語	その他に使用 する言語	担当形態			
研究室配属	必須	5 (講義2実習3)	4	1	月一金	日本語	英語	オムニバ ス			
【担当教員】 各講座 指導教官											
【科目名の英文】 Practical Research Experience Program (PREP)											
【授業の概要・到達目標】 国内・国外の研究施設を問わず、研究活動に従事している医師・研究者から早期に研究指導を受けることにより、研究の重要性・醍醐味を知ること、研究的探究心（リサーチマインド）を育むことを目的とする。また、将来の医学研究を担う人材として、研究チームの一員として協調的な学習環境の中で問題解決能力を高め、生命医学領域に対する学習意欲の向上につなげる。発展的な目標として、「大分大学大学院医学系研究科 研修医・博士課程コース（ORPhD プログラム）」への意識付けの機会を提供する。											
具 体 的 な 到 達 目 標						医学科ディプロマポリシーとの対応					
						1	2	3	4	5	6
1. 必要な課題を自ら発見できる						○		○	○	○	○
2. 自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位づけできる						○		○		○	○
3. 課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる								○			
4. 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる						○		○			○
5. 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる						○	○	○			○
6. 実験・実習の内容を決められた様式に従って文書と口頭で発表できる						○	○	○			○
7. 生命科学の講義・実習で得た知識をもとに、診療で経験した病態の解析ができる						○		○		○	○
8. 患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる						○		○		○	○
9. 抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し、解決に向けて科学的研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）に参加することができる						○		○		○	○
10. 医学研究と倫理（それぞれの研究に対応した倫理指針と法律）を説明できる									○		
各 DP への関連度（計10）						2	1	4	1	1	1

**【授業の内容】**

1. 特定の研究テーマに焦点を絞り、それを扱う研究室で実際の研究活動に従事し経験を深める。
2. 様々な研究テーマの存在について知り、それらのテーマを解明するための方法論を実践することを通して、発見の喜び、研究者の苦悩、研究者間の交流や情報交換などに直接触れる機会を持つ。
3. 研究室で行われている研究・実験の補佐から共同研究者としての活動、実験やフィールドで得られたデータの処理や解析などを指導教員や大学院生とともにやる。
4. 可能であれば学会発表、論文執筆なども体験する。
5. 配属期間の最後に発表会を行い、研究成果を口頭で発表する。
6. 研究室配属実行委員をあらかじめ決め、配属先の決定やプログラム作成など発表会の企画運営を含め、基礎医学部会教員の指導を仰ぎながらすべて学生主導で行う。
7. 将来の学会運営と発表のシミュレーションを行うことも目的とする。

**〔学外機関（国内、国外）での研究を希望する場合〕**

1. 学生が自分でコースと研究内容を企画し、事前に学内窓口となる教員へ依頼する。
2. 学生自身が事前にコース企画書を作成し、受入れ先指導者の受入れ承諾のメール等を提出して、基礎医学部会からの承認を受けることが必要となる。
3. カリキュラムの企画、国内外受け入れ機関との交渉は学生自身が行う。
4. 保護者の同意書を得て、渡航費、滞在費は各自の負担とし、また傷害保険への加入を義務づける。（国外派遣の場合には、語学能力検定の結果（写）を添付する。）

**〔研究成果の発表〕****1. 報告書**

指導教官の指示に従い、期間内（先行配属期間も含む）に実施した研究内容をまとめる（下記参照）。また、報告書の作成に当たっては、研究実施内容を実習参加学生にも理解できるよう努める。このことで学生の研究実施分野以外の領域への理解を深め、今後の学習意欲の向上を図る。

**（例）「課題解決研究」のまとめ方**

- ①目的（研究背景）、②方法、③結果（図表を含めてもよい）、④考察、⑤（必要であれば）参考文献といった一般的な論文形式でまとめることとする。

**（例）「課題発掘研究」のまとめ方**

- ①当該分野の背景、②課題・問題点、③課題解決に向けた方法（提案）とその根拠、④参考文献

**2. 発表**

研究室配属に参加した学生は口頭発表で（状況に応じてZoom・オンデマンド方式への変更もあり得る）、指導教官（指導講座）以外の教員・学生に対して研究成果を報告する。発表することにより、学生の発表技術向上を目指すとともに、当該分野以外の研究者・学生に「気づき」をもたらすことを期待する。

配属学生主導で十分な成果をあげ、その内容を学会等で学生が責任発表者として発表する場合、かつ、参加学会が本学発表会と日程上かぶる場合のみ、参加学会での発表を優先することを認める。ただし、その旨担当教官（講座責任者）から申請文章を提出することを条件とする。

**【アクティブラーニングの内容】**

全体を通して学生自ら目標を定め、計画して学修に取り組み、省察して次の学びにつなげていく「主体的な学び」を行う。

**【その他の工夫】**

上記すべて

**【時間外学修の内容と時間の目安】**

原則、研究時間は月曜から金曜の8:30-16:30（所属する研究室や教員の都合によりこの限りではない。）

準備学修	各研究室の指導に従う
事後学修	各研究室の指導に従う
想定時間合計	各研究室の指導に従う

**【教科書】**

適宜

**【参考書】**

適宜



【成績評価方法及び評価の割合】

1. 学内での研修の場合は、配属先の教授及び担当教員から単位認定を受ける。
2. 学外（国内外）での研修の場合は、窓口教員が配属先の教員との合議の上で認定する。
3. 配属期間内の内容を発表会で報告（口頭またはポスター）し、併せてレポートとしてまとめ、報告集として発刊する。

＜研究室配属の学生による評価方法＞

研究室配属に関するアンケートを実施する。

＜進級、再履修＞

研究室配属の評価が不可（60点未満）の場合は留年とする。

留年した場合の再履修は次年度の配属の期間に行う。

教員側の評価項目（参考）

1. 期間中に何を行ったかについてレポート（様式自由）と期間中に記録したノートの提出（操作内容、実験データ、科学的な言葉で記載されているか、論旨の誤り、飛躍はないか等）
2. 与えられた研究テーマに対する理解力と問題解決能力、批判する能力
3. 知識・技能の到達度
4. 英文原著論文の読解力
5. コミュニケーションスキル能力（指導教員、講座内メンバーと良好な人間関係が築けたか）
6. 積極性

上記の項目及び報告書の内容を総合的に判断し、研究指導教官（もしくは指導講座の講座責任者）が評点をつける。

発表に関しては、今後の学生の研究意欲向上を奨励する目的で、優れた発表を指導教官以外の教官により投票を行い、実験計画・実施内容・発表技術の優れたものを表彰する。

【注意事項】

研究に際し遺伝子組換え実験、ラジオアイソトープ、実験動物の使用を行う場合には、事前に講習会や当該施設利用のための研修会に参加し、利用規則を遵守する。その他危険物、感染性病原体を取り扱う場合も、厳重な注意が必要である。患者臨床データにおける個人情報を取り扱う研究テーマに関しては、必要に応じて倫理委員会での承認の上、特に慎重に実施する。

【備考】

研究室配属の詳細やタイムスケジュール等に関しては、学務課や実行委員の指示に従うこと。

特に学外実習の実施については、配属先の担当教員の指示に従うこと。

リンク		
	URL	
教員の実務経験の有無	○	医師，歯科医師，その他研究に関わる教員
教員の実務経験		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○	医師，歯科医師，その他研究に関わる教員
教員以外の指導に関わる実務経験者	教員の指導・監督の下、大学院生が実際の研究指導を実施する場合がある	
実務経験をいかした教育内容	教職員は自らの研究活動を元に、配属学生の研究活動への支援を行う	
授業形態	対面	

医 政 第 8 8 2 号  
令和 7 年 8 月 1 0 日

厚生労働省医政局長 殿

大分県福祉保健部長 首藤 丈彦

地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和 7 年 8 月 5 日付け 7 文科高第 666 号、医政発 0805 第 5 号に基づき、下記のとおり、令和 8 年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うこととしました。

地域の医師確保等に関する計画、都道府県計画等に沿って、地域枠入学者が地域に定着するよう取組を行います。

記

増員数

10 名

・大分大学医学部における地域枠：10 名

担当：医療政策課地域医療推進班 友利、佐藤

電話番号：097-506-2658

メールアドレス：a12620@pref.oita.lg.jp

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(医学部医学科)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					基幹教員以外 の教員	備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	導入教育科目	早期体験実習	1通	○	1					○	4			1		2	共同	
		健康科学概論	1前	○	1			○			2							
		医療倫理学Ⅰ	1前	○	1			○			1					1		
		医療倫理学Ⅱ	1後	○	1			○			1							
		心理行動科学	1前		1			○					1					
		数学と物理Ⅰ	1前	○	1			○										
		数学と物理Ⅱ	1前	○	1			○			1							
		数学と物理Ⅲ	1後	○	1			○			1							
		物理学実験	1後	○	1				○		1		1					
		化学Ⅰ	1前		1			○				1						
		化学Ⅱ	1前	○	1			○				1						
		化学実験	1後	○	1				○			1						
		発生学	1後	○	1			○			1	1	1				オムニバス	
		人間生命医科学Ⅰ	1前	○	1			○			1							
		人間生命医科学Ⅱ	1後	○	1			○			1							
		人間生命医科学演習	1後	○	1				○		1		1					
		医療情報システム学	1前	○	1			○		○				1		1	メディア	
		データサイエンス入門	1前		1			○								2		
		医療情報学	1後	○	1			○						1				
		導入Ⅰ（日本の古典文学を学ぶ）	1前			1		○								1		
		導入Ⅱ（自己理解のための心理臨床学入門）	1前			1		○								1		
		導入Ⅲ（ドイツ文学）	1前			1		○								1		
		導入Ⅳ（生物学）	1後	○		1		○					1					
		導入Ⅴ（音楽）	1後			1		○								1		
		導入Ⅵ（日本近代文学）	1後			1		○								1	メディア	
		導入Ⅶ（大分大学入門）	1前			1		○								1		
		小計（26科目）		—			19	7	0	—			7	2	2	2	0	11
	スポーツ・科学	健康運動科学演習Ⅰ	1前				1			○							1	
		健康運動科学演習Ⅱ	1後				1			○							1	
		小計（2科目）	—			0	2	0	—			0	0	0	0	0	1	—
	外国語科目	医学英語Ⅰ	1前	○	1				○			1						
		医学英語Ⅱ	1前	○	1				○					1				
		医学英語Ⅲ	1後	○	1				○				1					
		医学英語Ⅳ	1後	○	1				○			1						
		小計（4科目）	—			4	0	0	—			1	1	1	0	0	0	—
専門基礎科目	医学準備教育科目	医学のための心理学	1後			1		○								1		
		医学のための化学①	1後	○		1		○				1						
		医学のための化学②	1後			1		○				1						
		医学のための生物学	1前	○		1		○			1		1					
		医療英会話Ⅰ	2①②	○	1			○			1	1	1					
		医療英会話Ⅱ	3①②	○	1			○			1	1	1					
		医療英会話Ⅲ	4前	○	1			○			1	1	1					
		医療英会話Ⅳ	4後～6後	○		1		○			1	1	1					
		医療倫理学Ⅲ	2③	○	1			○			1							
		医療倫理学Ⅳ	4前	○	1			○			1							
		医療心理学	4前	○	1			○			1							
		小計（11科目）	—			6	5	0	—			3	2	2	0	0	1	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					基幹教員以外 の教員	備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	病院内実習	2③	○	1					○	4		1	3		5	
	小計（1科目）	—		1	0	0	—			4	0	1	3	0	5	—
	解剖学（講義）	2①	○	3			○			1	1	1	2			オムニバス
	解剖学（実習）	2①	○	4					○	1	1	1	2			
	組織学（講義）	2①	○	1			○			1	1	1	2			オムニバス
	組織学（実習）	2①	○	1					○	1	1	1	2			
	生理学（講義）	2①	○	4			○			1	1		3		1	オムニバス
	生理学（実習）	2①	○	1					○	1	1		3		1	
	生化学（講義）	2①	○	4			○			1	1	1	1			オムニバス
	生化学（実習）	2①	○	1					○	1	1	1	1			
	病理学（講義）	2②	○	4			○			1	1	1	2		2	オムニバス
	病理学（実習）	2②	○	2					○	1	1	1	2		2	
	微生物学（講義）	2②	○	2			○				1					オムニバス
	微生物学（実習）	2②	○	1					○		1					
	寄生虫学	2②	○	2			○			1	1				1	オムニバス
	免疫学	2②	○	1			○			1	1					オムニバス
	寄生虫学・免疫学	2②	○	1					○	1	2				1	
	薬理学（講義）	2③	○	4			○			2	3		1		2	オムニバス
	薬理学（実習）	2③	○	1					○	2	3		1		2	
	臨床薬理Ⅰ	2③	○	1			○			1	1		1		1	オムニバス
	小計（18科目）	—		38	0	0	—			8	10	3	10	0	7	—
	臓器別コース	呼吸器・感染症・乳腺	3①	○	3		○			3		2	1		11	オムニバス
		消化器	3①	○	4		○			5	4	1	6		17	オムニバス
		循環器	3①	○	4		○			3	3	1	4		15	オムニバス
		腎・泌尿器	3①	○	3		○			4		2	1		9	オムニバス
		内分泌・代謝・膠原病	3①	○	5		○			2			2		5	オムニバス
		腫瘍・血液	3①	○	3		○			1		1	1		7	オムニバス
		総合診療科・総合外科	3②	○	2		○			2	2		4		2	オムニバス
		運動器	3②	○	3		○			1	2		2		12	オムニバス
		皮膚	3②	○	1		○			1	1				5	オムニバス
		神経・筋	3②	○	4		○			2	2		5		19	オムニバス
		行動・精神・心理	3②	○	3		○					1	1		6	
		ライフサイクル医学（小児科）	3②	○	3		○			2	1	1	6		4	オムニバス
		ライフサイクル医学（産婦人科）	3②	○	3		○			4	1		2		6	オムニバス
		特殊感覚器・頭頸部	3②	○	4		○			1	1		7		27	オムニバス
		周術期・救急医学	3③	○	3		○			1	1	1	1		17	オムニバス
		放射線医学	3③	○	1		○			1			3		7	オムニバス
		社会医学	3③	○	7		○			3			4		11	オムニバス
	小計（17科目）	—		56	0	0	—			27	16	10	42	0	170	—
	配属研究室	研究室配属（講義）	4前	○	2		○			1						
		研究室配属（実習）	4前	○	3				○	31	20	12	43		12	
	小計（2科目）	—		5	0	0	—			31	20	12	43	0	12	—
	臨床実習前導入教育	社会医療	4前	○	1		○			2					1	
		症候学	4前	○	1		○			6	4	2	3		13	
		プライマリーメディカルケア	4前	○	1		○			1		1	1		1	
		C P C	4前	○	1		○			1						
		東洋医学	4前	○	1		○								8	
		臨床薬理Ⅱ	4前	○	1		○			1	1		1		5	
		メディカルインタビュー	4前	○	2				○	2						
		身体診察	4前	○	2				○	8	3	3	10		6	
	小計（8科目）	—		10	0	0	—			13	7	4	13	0	32	—

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					基 幹 （助 手 を 除 く） の 教 員	備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 教育 科目 （臨床）	臨床 実地 修練	臨床実習入門総合医学	4後	○	2			○			2			2		8	
		消化器（臨床）	4後～6後	○	4					○	5	5	1	6		12	
		循環器（臨床）	4後～6後	○	4					○	4	3	1	6		4	
		内分泌代謝・膠原病・腎臓内科（臨床）	4後～6後	○	2					○	2	1	1	5		7	
		神経（臨床）	4後～6後	○	4					○	2	2	1	6		10	
		呼吸器・感染症・乳腺（臨床）	4後～6後	○	4					○	3		2	2		5	
		腫瘍・血液内科（臨床）	4後～6後	○	2					○	1		1			1	
		総合診療科・総合外科（臨床）	4後～6後	○	2					○	2	2		6		1	
		精神科（臨床）	4後～6後	○	2					○			1	1		4	
		運動器（臨床）	4後～6後	○	2					○	1	1		2		4	
		皮膚科・形成外科（臨床）	4後～6後	○	2					○	1	1		1		6	
		泌尿器科（臨床）	4後～6後	○	2					○	4		2	2		7	
		産科婦人科（臨床）	4後～6後	○	2					○	4	1		2		4	
		小児思春期発達（臨床）	4後～6後	○	2					○	2	1	1	6		3	
		耳鼻咽喉科（臨床）	4後～6後	○	2					○		1		2		5	
		眼科（臨床）	4後～6後	○	2					○	1			3		4	
		放射線科（臨床）	4後～6後	○	2					○	1			2		1	
		麻酔・救急（臨床）	4後～6後	○	4					○	1	1	1	2		5	
		臨床薬理（臨床）	5～6	○	1					○	1	1		1		3	
		歯科口腔外科（臨床）	5～6	○	1					○	1			1		3	
		臨床社会医学実習Ⅰ	4後～5後	○	4					○	1						
		臨床社会医学実習Ⅱ	5～6	○	4					○	1						
		関連教育病院実習	5～6	○	2					○	1						
		上級能力実技	6通	○	1					○	1						
		小計（24科目）		—			59	0	0	—			29	17	10	46	0
合計（113科目）			—		198	14	0	—			39	25	18	58	0	226	—
学位又は称号		学士（医学）			学位又は学科の分野					医学関係							
卒業要件及び履修方法										授業期間等							
1．教養教育科目 27単位 1）導入教育科目 必修科目 19単位 2）導入教育科目、身体・スポーツ科学科目 選択必修科目4単位 3）外国語科目 4単位 2．専門基礎科目 118単位 1）医学準備教育科目 必修科目 6単位、選択必修科目2単位 2）「病院内実習」 1単位 3）基礎医学 必修科目 38単位 4）臓器別コース 必修科目 56単位 5）「研究室配属（講義）」「研究室配属（実習）」 5単位 6）臨床実習前導入教育 必修科目 10単位 3．専門教育科目（臨床）59単位 臨床実地修練 必修科目 59単位  ◆卒業の要件 204単位										1学年の学期区分				2期及び3学期			
										1学期の授業期間				15週			
										1時限の授業時間				60分及び90分			